

(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部通信 第6号 2005年9月

事務所：〒840-0054 佐賀市水ヶ江4丁目2-2 TEL/FAX 0952-28-2077

e-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

URL <http://www2.odn.jp/unicef-saga/>

台風14号のお見舞い申し上げます

いつもユニセフの活動にご支援ご協力をいただきましてありがとうございます。アメリカの大型ハリケーン「カトリーナ」のニュースの後の大型台風14号襲来、各地に大きな被害を残して通り過ぎました。皆さまのお宅ではいかがでしたでしょうか？お見舞い申し上げます。

日本ユニセフ協会佐賀県支部ではこの夏「HIV/エイズの危機と子どもたち」の写真展、「先生のためのユニセフ学習会～ワークショップ：マジカルバナナ～」の大きな催しをしました。

エイズ孤児や母子感染でHIV/エイズの危機に晒されている子ども、低賃金で働かされて学ぶ機会を持つことができない子ども、紛争やテロに巻き込まれる子ども、そして冷たいきれいな水の一滴さえも喉を通ることなく幼くして静かに息をひきとる子ども……。

今、このときもそのような子どもたちがたくさんいます。様々な困難な状況下にある子どもたちを支援するために、佐賀でできることを一緒にしてまいりましょう。皆様のご支援ご協力をよろしく願います。

ニジェール食糧危機

アフリカ情報

16万人の子どもが中度の栄養不良
3万2千人の子どもが深刻な栄養不良

[資料提供：日本ユニセフ協会]

1. ニジェールについて
西アフリカに位置するニジェールは、世界でも最も貧しい後発開発途上国のひとつです。ニジェールの乳児死亡率は154（赤ちゃん1,000人中154人が1歳未満で死亡）、5歳未満時死亡率は262（子ども1,000人中262人が5歳未満で死亡）とどちらも世界で最も高い数値を示しています。子どもの主な死亡原因は、下痢、肺炎、マラリアなどで、それらはすべて栄養不良が隠れた要因となっています。

2. 干ばつとバッタの来襲による食糧不安
2004年の耕作期に砂漠バッタの大群がニジェールの一部を襲い、ほとんど全ての作物を食べ尽くしました。またいくつかの地域では、雨量が足りなかったため作物はとれず、放牧地は干上がり、農民も畜産業者も大きな影響を受けました。2005年3月に国連、政府、NGOが合同で行った調査の結果、5歳未満児80万人を含む360万人（2,988村）がこの食糧危機によって厳しい状



況におかれていることがわかりました。支援を待つ 80 万人の 5 歳未満児のうち、20%（16 万人）が中度の栄養不良、4%（32,000 人）が深刻な栄養不良だと見られています。

3. これまでのユニセフの活動

ユニセフ・ニジェール事務所は、すでに US\$1,235,400（約 1 億 3,590 万円）をこの食糧危機に対して充当しています。ユニセフはニジェール政府や国際 NGO、他国連機関と協力して、中度・重度の栄養不良の子どもたちの治療と食糧不足の影響を軽減するために活動しています。

WFP（世界食糧計画）との共同事業では、614 トンの穀物を食糧不足に襲われた 62 の村に配り、4 万人の 5 歳未満児を含む 20 万人の住民に対応しました。

また追加の 900 トンがさらに 90 村落に配布される予定です。およそ 6 トンの種子類（とうもろこし、小麦、ジャガイモ）も提供されました。

4. 複合的な被害

穀物の価格と貯蔵

2005 年 3 月、穀物の価格は昨年同時期に比べ急騰し、収穫が少ない時期に通常見られる価格と同じくらいまで上がりました。また飼料がないために家畜の死亡も増加していると報告されています。一方で人々は自分の家畜を売り払い、それらが市場に氾濫するため牛肉の価格が暴落しています。そのため家畜を売っても、その金で家族に必要なだけの穀物を買うことはできないのです。

保健と予防接種

中度・重度の栄養不良に陥った子どもたちは免疫機能が低下し、感染への抵抗力が弱まり、その結果、下痢、肺炎、マラリア、はしか、その他水に起因する病気など、子どもたちに多い病気によりかかりやすくなっています。治療を受けた子どもたちの、そしてまだ治療を受けていない子どもたちについても免疫状態・健康状態を観察する必要があります。治療センターでの調査や地域レベルでの健康調査を続けていかなければなりません。

5. ユニセフの支援活動の拡大

食糧危機による緊急事態においては、ユニセフは WFP と緊密な連携をとりながら活動をします。ユニセフの大まかな方針としては、支援の調整をすること、そして国の保健施設や NGO を支援して中・重度の栄養不良に対応すること（治療用食糧の提供や保健員の研修）、また保健、予防接種、水と衛生、保護に関連して発生するあらゆる問題に対応することです。ユニセフの差し迫った目標は、①32,000 人いると見られる重度の栄養不良の子どもたちと 160,000 人の中度栄養不良の子どもたちを治療し、a) 現在中度の栄養不良の子どもたちが重度に陥らないようにすること、並びに b) 栄養不良から回復した子どもが再び栄養不良とならないようにすること、②政府機関とコミュニティの能力を強化し、繰り返される食糧危機に対処できる体制をつくること、そして③被害を受けている人々が保健、予防接種、保護、水と衛生に関するサービスを確実に受けられるようにすることです。

6. 活動プログラム

政府機関、国連機関、NGO との協力のもと、ユニセフは次のような具体的な活動を実施します。

- ・ 16万人いる中度栄養不良の子どものための栄養補助食（ユニミックス 4,000 トンと油 40 万リットル）や計測機器を調達、配布します。
- ・ 32,000 人いる重度栄養不良の子どもたちのための栄養補助食（プランピーナッツ 13,000 箱、治療用ミルク F100 を 366 箱）および基礎医薬品、ワクチン、蚊帳、ビタミン A カプセル、鉄分と葉酸のサプリメントを調達、配布します。
- ・ 追加の栄養治療センターを設置し、保健員に対し重度栄養不良の子どもへの対応を研修します。
- ・ 地域レベルでの身体測定調査を支援したり、栄養不良児を早期発見し栄養治療プログラムへ紹介したりするための推進チームを支援、研修します。
- ・ 特に母乳育児などの子どもの栄養補給、開発、保護の原則について、母親、ケア要員、地域の主要メンバーに助言します。
- ・ 150 の穀物銀行をつくり、150 のコミュニティにその運営方法を研修します。
- ・ 厚生省の職員や NGO のスタッフの栄養プログラム運営能力を強化します。
- ・ 50 の女性グループに種子類を配布します。
- ・ 栄養不良児をかかえる家庭に水・衛生キット（浄水剤、缶、石鹼など）を提供します。また、家族に対し水の浄化や保存に関する研修をします。
- ・ 食糧不足に陥っている地域の水と衛生状況を調査し、雨季後に開始する水供給や衛生施設、衛生習慣の改善計画を策定します。
- ・ 協力パートナー、国連職員、政府職員に対し、特に性的搾取や虐待に関連する人道的行動指針を広めます。
- ・ モニタリング、評価、報告のシステムを確実にします。

（財団法人日本ユニセフ協会では、アフリカの子どもに対するユニセフの緊急援助を支援する「アフリカ緊急募金」の受付を行っています。皆様のご協力をよろしくお願い致します。）

Let ' s unicef

このコーナーでは様々な形でユニセフの活動をご支援くださる方を紹介します。

トップバッターは、みやき町にお住まいの二宮さんです。



二宮雪恵さん（三養基郡みやき町）

ユニセフの活動には随分前から関心を持っていました。昨年、アフリカの写真展で、ずっと集めていた使用済み切手のことを尋ねて、お手伝いできる一つのことが見つかりました。捨ててしまうものがほんのちょっとした心がけで世界の子どもたちのためになれば…と、今年度より学校・PTA へも声かけをして取り組みを始めました。まだまだ量にしたらほんの少しですが、一人ひとりのほんの少しの「気持ち」が集まればこんなになるんだよ！と、これからも子どもたちと共にまずは自分のできるお手伝いからしていこうと思っています。

かつどうほうこく

- ◎ 6月30日(木) 国際ソロプチミスト佐賀西部募金贈呈式
(北方町北方中央公民館)
- ◎ 7月3日(日) エコマーケットにてミニバザー
(佐賀市エコプラザ)
- ◎ 7月12日(火) アバンセ館長のルポライター講座にて
ユニセフの広報&ネパールスタディツアーの報告 (佐賀市アバンセ)
- ◎ 7月24日(日) 第8回萩居流チャリティー古典舞踊ゆかた会にてパネル展・ユニセフグッズ頒布
(鹿島市エイブルホール)
- ◎ 7月20日(水)～31日(日) (佐賀市佐賀市立図書館)



ユニセフ写真展～忘れられた子どもたち～ 「HIV/エイズの危機と子どもたち」



・夏休み期間中であったため、多くの子ども連れや若い人たちに見ていただきました。



・クイズコーナーで HIV/エイズの理解を・スタッフの説明を熱心に聞く中学生・アンケートにも協力いただきました。



会場には「スマトラ島沖地震・津波緊急復興支援へのご協力ありがとうございました」のコーナーを設け、復興支援の様子や募金の使われ方を紹介しました。

**スマトラ島沖地震・津波復興支援募金への
たくさんのご協力,ありがとうございました。
感謝申し上げます。**

ユニセフ講演会「HIV/エイズ 日本では…」 7月23日(土)

講師 武富弥栄子先生 (佐賀大学保健管理センター看護師)



- ・ 先進工業国で唯一 HIV/エイズが増えているのは日本だけである。『音のない戦争』は静かに、しかし確実に足元にしのびよっている…との武富先生のお話に参加者も真剣に耳を傾け会場からは多くの質問が出されました。また、前佐賀中部保健所長の太田記代子先生も「予防教育」の大切さを力説されました。

講演会参加者の声

☆ エイズについて漠然と知っているつもりでしたが、今日の話聞いて我が子の世代に危機が迫っていると感じました。親子の断絶とかコミュニケーションがとれていないなどと言っている場合ではなく、大人から子どもたちへ正しい知識を与え、また、偏見を持たないようにしていきたいと思いました。今日は来てよかったです。帰宅して家族や同世代の子どもを持つ周囲の人たちへも教えたいです。(太田)

写真展来場者の声

☆ HIV/エイズによって両親を亡くしてしまった子どもたちだけ、これからの時代を生き抜いていくすてきな笑顔が見られた。クイズも知らないことを知れてよかった。ユニセフに協力してこの笑顔を守ってきたい。(大石)

☆ いつも子どもは被害者であり大人の間違った行動で傷つけられていることをもっと訴えてよい。(鷺崎)

☆ マスコミ等で報道されない面が見られてよかった。(赤坂)

☆ 写真中心で短時間に見やすかった。多くの人に広めるためにはこのスタイルがいい。(ひらの)

◎ 8月27日(土) 先生のためのユニセフ学習会

(佐賀市:アバンセ)



松本亜樹先生

地球共育の会・ふくおか副代表の松本亜樹先生をファシリテーターとして迎え「マジカルバナナ」のワークショップをしました。参加者は45名で子どもたちの参加もありました。

食料自給率40%の日本で、私たちが毎日何げなく「買ったり」「食べたり」していることが、世界の人々の暮らしとどのようにつながっているのかを、身近なバナナを例にして考えてみました。



常務理事の角田研三先生より開会の挨拶

① バナナクイズ

○ バナナの語源や種類、生産地などのクイズでアイスブレイキング



バナナの語源は「手の指」



バナナの種類は「約 300 種」



バナナ生産量一位は「インド」

② くらべてみよう！ 二つのバナナ（キャベンディッシュとバランゴン）



○ 産地、値段、検査、生産過程、生産量、収穫後、輸出経路、生産者…二つのバナナをくらべながらカード分けをしました。



○カードを分けて裏返ししたら…何と！パズルの出来上がりでした！

○この後、「バナナ農園で働く人びと」と「バナナ村で暮らす人びと」のロールプレイの台本を読んでいただき、二つのバナナのそれぞれの背景に触れていただきました。

③ ふりかえり



○ 二本のバナナを比べることによって今まで見えなかった世界が見えてきました。

評議員の関谷静司先生より
講師の松本先生、

マジカルバナナ：参加者の声

(ふりかえりシートより)

◆ 今日のワークショップで一番印象に残ったことは何ですか？

- ・ 自分の身の周りにある何気ない一本のバナナではありますが、ちょっと視点を変えて見る、考えてみると、その一本のバナナがとても重いものであるんですね。（現地の現状などを考えると。）何でもそこにあることがあたりまえだと思わず、時として立ち止まって見直す、視点を変えて見ることって大切ですね。
- ・ 私たちがいつでもどこでも簡単に手に入れることができるバナナ。その向こう側には私たちが想像もしなかったバナナの生産に携わる人々の暮らしがあることに気づかせていただきました。これって、日本で消費している私たちにも責任があるのではないか…？「知ってしまった」ので、同じ地球に生きる人として、今までのように安易に何気なく買物をしていいのかとちょっと考えています。
- ・ それぞれの一本のバナナの向こうには違う人々の生活が見えてきました。スーパーに並ぶバナナだけに限らず、それぞれの品物の向こう側をちょっと意識し始める気がしてきました。

◆ あなたにできる「半歩」は何でしょう？

- ・ 今まで一円でも安いものと思って新聞のチラシをチェックして買物をしていましたが、今日「知ってしまった」ので、これからは「なぜそんなに安くできるのか？」を考えたり、できれば勉強したりしていきたいと思っています。
- ・ 自分だけのお腹いっぱい満足してはいけない現実を少しずつ子どもたちに伝えていけたらと思います。外見だけで選びがちな消費者の目について（バナナだけではなく）自分を見つめるようにしたいと思います。
- ・ バナナに限らず、私たちの身の周りにあるもの、起こることはすべて色々な人々とのつながりがあることを意識していきたいと思う。
- ・ 一本のバナナを店で買うときなどに生産者の暮らしなどを子どもたちに話してあげたいと思った。人に伝えることが大切かな！
- ・ いろんなことを見極めることのできる人間でありたい。昔、ネグロスバナナを「わあ、真っ黒！！」と驚き、二度と購入しなくなった自分を激しく反省しています。

◆ ワorkshop「マジカルバナナ」の内容はいかがでしたか？

- ・ 初めてのワークショップでしたが、ふつうの学習と違って受動的ではなく能動的で非常に楽しかったです。
- ・ 今回の内容を再構成して授業をやってみたいと思いました。（保護者の皆さんにも一緒に考えてもらえるように授業参観で）
- ・ 参加体験型学習のバナナの試食をしたり、パズルを作ったりすることは大変興味をそそるものであってよかった。初めて知ったこと、「へえ～」と思うことがたくさんあった。
- ・ 子どもたちが大好きでどこでも手に入るバナナから、こんなに奥の深い学びが作れることに感動しました。ぜひ、持ち帰って学習を組み立て実践し、仲間にも紹介したいと思います。
- ・ 「参加型学習」という言葉をこのごろよく言いますが、今日のワークショップでは色々とアレンジして使える手法がたくさんあり、よいヒントをたくさんいただきました。大変よかったです。ありがとうございました。
- ・ 楽しくゲームを通して子どもと一緒に学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・ 情報分けのパズル、おもしろかったです。自分の活動場所でも応用できそうです。ありがとうございました。
- ・ 初めての参加でした。正直、参加・体験は苦手とするところなのですが、楽しく経験させてもらって次も行っ

てみようかなと思いが帰ることができます。

◎ 8月29日(月) 第4回 夏休み親子交流会 in プラザ (佐賀市 i スクエアビル)
テーマ「戦後60年～ユニセフと危機にさらされる子どもたち～」

戦後60年の節目の年、夏休みの一日をプラザで過ごす親子にユニセフのパネルやビデオ、クイズなどを通して“戦争と平和と子どもたち”について考えていただきました。



パネル「紛争下の子どもの人権」



クイズコーナー 「ユニセフ〇×クイズ」に挑戦

パネルの説明をヒントに親子でクイズに答えていただきました。

クイズに答えた子どもたちには星のネックレスのプレゼント!!



「地雷」コーナー

「蝶型地雷」の説明を聞く子どもたち

子どもたちの声

子どもが兵士になっているのが一番びっくりしました。だって私ぐらいの子どもがなっているから。(小4)

子どもたちに予防注射をするために戦争をとめたのがすごい。びっくりした。(小5)

いろんな地雷があった。地雷のある場所を歩かされるなんてこわい。早く地雷が全部なくなればいいと思った。(小5)

私はこんなに幸せなのに、今もどこかの国で子どもたちが戦争でなくなっていることが本当にあることなのか、ありえないと思った。信じられない。地雷は命は助かっても一生のケガをするおそろしい物だ。びっくりした。(小6)

これからの活動予定

ボランティア募集!! 0952-28-2077

1. さが国際交流協力フェスタ2005 10月16日(日)10:00～16:00(佐賀市アバンセ)
「女の子だって学びたい!～すべての子どもに教育を～」 パネル展・ユニセフグッズの頒布・クイズラリー
2. 巨勢小学校4年生ユニセフ出前教室 10月24日(月) (佐賀市立巨勢小学校)
道徳:「世界の中の日本人としての生き方」～世界の子どもたちのために～(ユニセフ佐賀県支部)
3. 小城ばんたフェスタ 11月3日(木) (小城市小城公園)
4. 平成17年度かたりべの里本庄祭り 11月12日(土) (佐賀市立本庄小学校G)
5. 第27回ユニセフ ハンド・イン・ハンド 12月中旬の予定

★ 秋は行事の多い時期です。上記以外にも色々なイベントが入ります。事務局ではボランティアを募集しています。ボランティア協力いただける方は事務局まで、先ずはご一報ください。

ご支援ありがとうございました

立正佼成会唐津教会様 黒川カイセイ薬局様 国際ソロプチミスト佐賀西部様 富士南小学校児童会様
バリュー平山店様 ようどう館大和校様 ようどう館佐賀鍋島校様 山小屋ラーメン佐賀南店様
九州荻居会代表稲葉様 エクセルウエンズ店様 佐賀市立文化会館様 山里中学校様 佐賀友の会様
日之出鋼管株式会社様 いのちの電話事務局様 鍋島小学校ハートフル委員会様 大昇物産株式会社様
パナソニックマーケティング株式会社様 株式会社東急コミュニティー九州様
第一生命保険相互会社佐賀支社様 (株)長野ダイハツモーター様 (2005年6月9日～9月7日)

※ 企業・団体のみのご紹介とさせていただきます。個人の方々からもたくさんのご協力を頂いていますが、平成17年4月1日からの「個人情報の保護に関する法律」施行に伴い、お名前の掲載は控えさせていただきます。

日本ユニセフ協会 会員募集



ケニアの子どもたち ©2004Maki

日本ユニセフ協会と日本ユニセフ協会佐賀県支部の活動は会員の皆様の会費によって支えられています。会員の皆様には「ユニセフニュース」（世界の子どもたちの様子を現地からお伝えしています。）や支部からのご案内などをお送りいたします。どうぞ、会員としてユニセフの活動をご支援くださるようお願いいたします。ご一報いただきましたら「加入申込書」をお送りいたします。よろしくお願いいたします。

年会費（一口）（例：2005年9月10日～2006年9月9日）

- 一般 5,000 円
- 学生 2,000 円
- 団体 100,000 円

お問い合わせ・お申し込みは(株)日本ユニセフ協会佐賀県支部へ TEL & FAX 0952-28-2077

E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp URL <http://www2.odn.ne.jp/unicef-saga>

